

多かった。放流113～125日後にはP型がやや減ったもののそれでも61%と過半数を占めた（図Ⅲ-13）。また、C2・OL型の増加は94R-3P2群と同様の理由によるものであろう。

5. 漁獲サイズ

(1) 目的

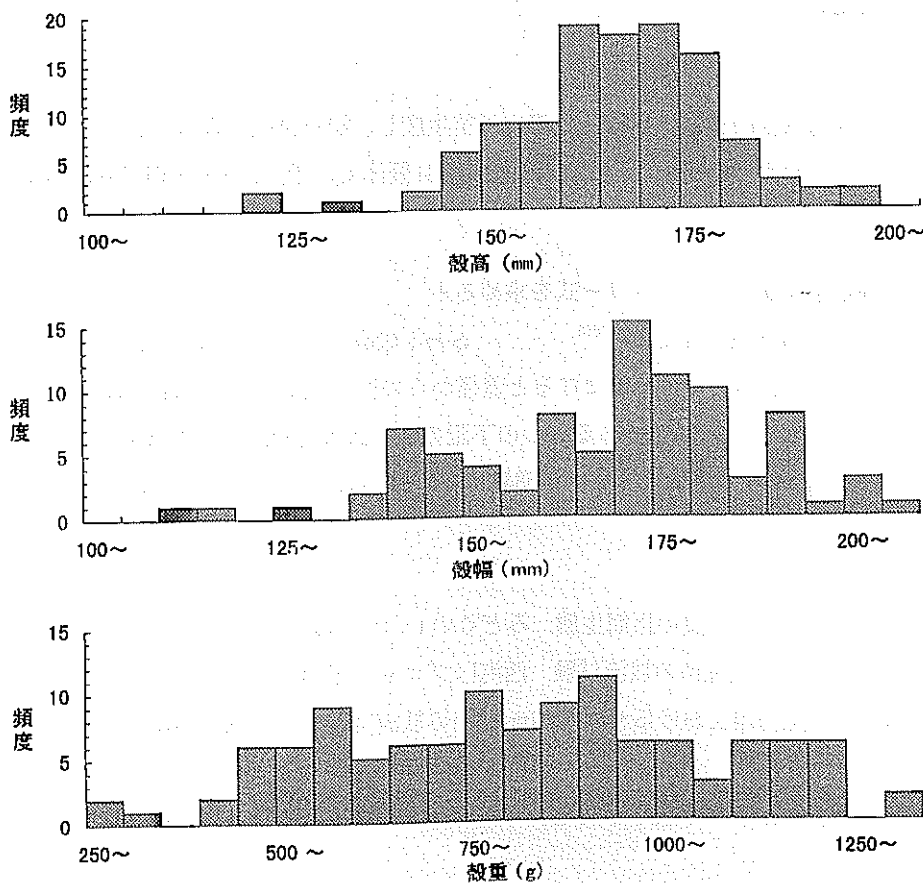
現在のヤコウガイの漁獲サイズを把握するために、貝類仲買業者に集荷されたヤコウガイの殻高・殻幅・殻重測定をおこなった。

(2) 方法

貝類仲買業者の具志堅キヨさんのところに集荷されたヤコウガイを、1994年12月26日から1996年1月25日にかけて測定した。測定はこの間6回、計125個体について実施した。

(3) 結果

漁獲されたヤコウガイの殻高は120～200mmの範囲で、120～135mmの少数の小型個体を除けば、165～175mmにピークがある単峰型を示した。また殻幅は、110～205mmの範囲で、ヒストグラムからは5、6群に分離できそうである。殻重は、250～1,350gの範囲で、ヒストグラムの形は、台地状で群の分離は難しそうである（図Ⅲ-14）。今回の結果から、殻幅が最も群分離できそうな測定項目であると考えられたが、測定個体数が125と少ないので、今後測定数を増やしていく必要がある。



図Ⅲ-14. ヤコウガイの漁獲サイズ